

コルビー修道院のカロリング朝期写本のイニシアル

安藤さやか

序

9世紀初頭にコルビーのサン＝ピエール修道院で制作された、《コルビー詩編》（アミアン、市立図書館、Ms. 18 / Cat. A-23）と称される詩編写本¹は、カロリング朝期を代表する彩飾写本の一つである。詩編やカンティクムの各編冒頭を飾る計156点²のイニシアル（装飾頭文字）は、インスラー（島嶼）写本やメロヴィング朝写本といった先行する写本芸術から継承した装飾語彙と、詩編の内容を示唆する図像をイニシアルのうちに表す「物語イニシアル」の豊かさによって名高い。

カロリング・ルネサンスと呼ばれる、古典古代を志向した文化復興運動の開花期にあつて、《コルビー詩編》のイニシアルは当時の宮廷芸術を中心とした潮流とは対照を成す、前時代の要素を色濃く残す様式を示しており、J. ポルシェの言葉を借りるならば、「バルパロイ」の芸術であつた³。これらのイニシアル芸術には、カロリング朝写本画研究の泰斗である W. ケーラーが「殆ど孤立した、並外れて豊かで独創的な作品」と評し⁴、同写本のモノグラフを記した U. クーダーが、その前段階となる詩編写本が残されていないことを指摘したように⁵、装飾と図像の共存という点で匹敵する類例が同時代に現存しない。その為、先行研究に於ける本作品のイニシアルの造形分析で引き合いに出されるのは、制作地の不明確な作例か、或いは制作環境が大きく異なる、カール大帝宮廷派の豪華写本が殆どであつた。本稿ではこれに対し、8-9世紀のコルビー修道院に由来する写本のイニシアルと《コルビー詩編》のそれとを比較することで、当時の同修道院に於ける本作品の位置付けを明らかにすることを目的とする。

1. コルビー修道院とその蔵書の研究史

現在ではフランス北東部のソンム県にあたる、ピカルディーのアミアン近郊に位置するコルビー修道院は、657-661年の間に、メロヴィング朝フランク王国の王クロヴィス2世（Clovis II, 在位639-657/8年）の妃であつたバティルダ（Bathilda, 626年頃-680年）と、その息子クロタル3世（Chlothar III, 在位658-673年）によって創設された⁶。創設時の修道士は、アイルランド出身の聖コルンバヌスによって創建されたリュクスイユ修道院より集められ、聖コルンバヌスによる規律とベネディクトゥスによる戒律を併用していたようである⁷。聖ペテロと聖パウロ、聖ステファヌス、そして聖ヨハネに奉納された三つの教会堂を持つ同修道院は、メロヴィング朝からカロリング朝にかけて、フランク王国の王立修道院として、膨大な写本を制作・所蔵する知的生産の中心地の一つへと発展を遂げる。

コルビー修道院がカロリング・ルネサンスに特に大きく貢献したのは、同修道院で完成されたカロリング小文字によってである⁸。当時カール大帝（Carolus Magnus, 768-814年フランク国王、800-814年西ローマ皇帝）のもとでラテン語の純正化や修道院学校等に於ける教育の強化が計られており⁹、その一環として読みやすく誤写の少ない書体の改良が各地のスクリプトリウムで行われていた。コルビー修道院長マウルDRAMヌス（Maurdramnus, 在位771-780年）の命で制作された《マウルDRAMヌス聖書》（アミアン、市立図書館、Mss. 6-12）では、マウルDRAMヌス型と呼ばれる特に明瞭で洗練されたカロリング小文字が完成されている。マウルDRAMヌスの後に修道院長を務めたアダラルドゥス（Adalardus, 在

位 780-820 年) とワラ (Wala, 在位 824-836 年) はともにカール大帝の従兄弟であり、宮廷権力と結びついた同修道院はルートヴィヒ敬虔帝 (Ludovicus Pius, 813-840 年西ローマ皇帝) の下で、ザクセンに「新しいコルビー (nova corbeia)」を意味するコルヴァイ修道院を創建するなど、政治的にも文化的にもこの頃頂点を迎える¹⁰。9 世紀中葉には、優れた神学的著作で知られ修道院長を務めたパスカシウス・ラドバルトゥス (Pascasius Radbertus, 在位 843-851 年) やコルビーのラトラムヌス (Ratramnus Corbiensis, 868 年頃没) らを輩出し、同修道院の図書館司書 (custos librorum) として知られるハドアルドゥス¹¹ (Hadoardus, 生没年不詳) が稀覯本の蒐集と写本の制作に努めるなど、同修道院は宮廷の置かれたアーヘンから地理的には遠く離れながらも、カロリング朝期の学問的な要所であったことが窺える。

ヴァイキングによって 881 年に同修道院は破壊され、断続的に続く侵略に対して 10 世紀初頭には要塞が施される。回廊や共同寝室、宿坊等を伴う一連の修道院建造物は、13-17 世紀にかけて幾度となく再建・改修され、聖堂はステンドグラスや扉口彫刻によって装飾された。1636 年にスペイン軍によって同修道院が占領されると、翌々年には約 400 点もの写本がパリのサン＝ジェルマン＝デ＝プレ修道院へと移送されている。その後コルビー修道院はサン＝モール修族の傘下に入り、18 世紀前半には修道院長の座に就いた枢機卿ポリニャックの始めた改築工事によって、中世建築の殆どが姿を消している。修道院はフランス革命下の 1790 年に解体され、現在ではアミアンの市立美術館に中世彫刻の一部が保存されている。

コルビー修道院の写本は現在では、サン＝ジェルマン＝デ＝プレに由来するものの大部分がパリのフランス国立図書館に、そしてフランス革命の際に同修道院から持ち出されたものの多くが、アミアン市立図書館とサンクトペテルブルクのロシア国立図書館を中心とした、各地の図書館に所蔵されている。

コルビー修道院の蔵書についての研究は、コルビーの修道士であった J. マビヨンによる『古文書の形式について *De re diplomatica*』(1681 年) が濫觴であり¹²、サン＝モール会士トゥスタンとタッサンによる『新文書形式学提要 *Nouveau traité de diplomatique*』(1750-65 年) に引き継がれた¹³。その後、同修道院の図書館に由来する写本は、主に古書体学と写本学の面から研究が進められてきた。L. ドリールはパリ所蔵の、A. スタークはサンクトペテルブルク所蔵のコルビー写本についてそれぞれ目録を作成し、ドビアス＝ロドシエンスキーはサンクトペテルブルク所蔵の写本より、9 世紀前半までのコルビー修道院のスクリプトリウムについて研究を進めている¹⁴。B. ビショッフや T. A. M. ビショッフ、U. ヴィンター、D. ガンツらは、カロリング朝期の写本の目録化を試みる中でコルビーの蔵書についても精査し¹⁵、それは K. ツェキエル＝エックスによる補足と共に現在では *Monumenta Germaniae Historica* のウェブサイト上で公開されている¹⁶。しかし同修道院の写本は美術史学の立場からは、C. ド・メランドルによる 12 世紀の写本を中心としたミニアチュールの研究を除いて¹⁷、写本毎の個別研究に留まっているのが現状である。古書体学や写本学、文献学の立場から既に目録化が進められてきたコルビーの蔵書一覧に基づき、これまで等閑視されてきた同修道院スクリプトリウムの絵画様式の究明が望まれるだろう。

2. カロリング朝期のコルビー写本

《コルビー詩編》のイニシアルが、制作当時のコルビー修道院のスクリプトリウムでどのような写本彩飾を手本とし得たか、カロリング朝期の同修道院の図書室でどのように位置付けられるのかを明らかにする為には、8-9 世紀の同修道院で制作・所蔵された彩飾写本の総体を把握する必要がある。メロヴィング朝からカロ

リング朝にかけて同修道院で制作された、或いは少なくとも同修道院の図書室に所蔵されていたであろう写本のうち、彩飾を伴うものを可能な限り、以下に一覧化した¹⁸。

[A- コルビー修道院で制作された写本]

書体による時代区分	所蔵先・所蔵番号	制作年代	テキスト	ミニチュール	本稿でのカタログ番号	図版
メロヴィンギ朝写本	サンクトベテルブルク、NL, Lat. Q v l 13	8 世紀	Gennadius, <i>De Ecclesiasticis Dogmatibus</i> , Hieronymus, <i>Epistolae</i>	著者像としてのヒエロニムス、半バルメット文のある幾何学文・魚文イニシアル	A-1	fig. 9
	サンクトベテルブルク、NL, Lat. F v l 2	7-8 世紀	<i>Regula Basilii</i>	ロゼッタ文のある馬蹄形アーチ、半バルメット文付き魚文イニシアル	A-2	
	サンクトベテルブルク、NL, Lat. O v l 3	8 世紀中葉	<i>Evangelium Matthai (Itala)</i>	魚文イニシアル	A-3	
	サンクトベテルブルク、NL, Lat. O v l 2	8 世紀中葉	<i>Evangelium Marci</i>	半バルメット文イニシアル	A-4	
	ロンドン、BL, Burney 340; サンクトベテルブルク、NL, Lat. F v l 4	7 世紀	Origenes, <i>De Balaam et Balac</i> , (<i>Hom. in Numeri</i> , XV-XIX), Johannes Chrisostomus, <i>De Reparatione Lapsi</i>	装飾文字、鳥魚文イニシアル	A-5	
	パリ、BN, Ms. lat. 12190	8 世紀中葉	Augustinus, <i>De Consensu Evangelistarum</i>	組紐文によるカーペット・ページ(制作地は地中海沿岸か)、組紐文イニシアル	A-6	
レトリカフラス型	サンクトベテルブルク、NL, Lat. F v l 6	8 世紀中葉	Ambrosius, <i>In Lucam</i>	植物文のあるアーチの扉絵、植物文・幾何学文・鳥魚文イニシアル	A-7	fig. 2
	サンクトベテルブルク、NL, Lat. F v l 5	8 世紀中葉	<i>Psalterium Triplex cum Canticis</i>	植物文イニシアル	A-8	
e N 型	サンクトベテルブルク、NL, Lat. O v l 4	8 世紀中葉	Cassianus, <i>Collationes</i> , XI-XVII	イニシアル	A-9	
	パリ、BN, Ms. lat. 13028	8 世紀	<i>Etymologiae</i> , XVI-XX; IV, 1-12	幾何学文イニシアル、魚文イニシアル	A-10	
	パリ、BN, Ms. lat. 13348, fols. 1r-112v	8 世紀	Hieronymus, <i>Quaestiones in Genesim</i> ; <i>De Situ et Nominibus</i> ; Ps. Eucherius, <i>De situ Hierosolymiae</i> ; Hieronymus, <i>Epistolae</i> , VIII, X, XIII, LXIII; <i>In Isaiam</i> ; <i>Versus Constantiae et Damasii</i> ; <i>Esdras</i> ; <i>Ephraem</i> , <i>Sacrapsum</i>	幾何学文・半バルメット文イニシアル	A-11	
	パリ、BN, Ms. lat. 13349, fols. 1r-80v	8 世紀	Hieronymus, <i>In Ecclesiastem</i>	幾何学文・半バルメット文イニシアル	A-12	
	パリ、BN, Ms. lat. 12239	8 世紀後半	Cassiodorus, <i>In Psalmos</i> , I-L	幾何学文・半バルメット文イニシアル	A-13	
	アミアン、BM, Ms. 220	8 世紀	Paterius, <i>Liber Testimoniorum</i>	鳥文イニシアル	A-14	
マウルドラムヌス型	アミアン、BM, Ms. 6	780 年以前	<i>Pentateuch</i>	着色された幾何学文・植物文・獣頭イニシアル	A-15	
	アミアン、BM, Ms. 7	780 年以前	<i>Liber Iosue</i> ; <i>Liber Iudicum</i> ; <i>Liber Ruth</i>	幾何学文・動物イニシアル	A-16	fig. 4
	アミアン、BM, Ms. 8	9 世紀第 1 四半期	<i>Prophetia Ezechielis</i>	幾何学文のある簡素なイニシアル	A-17	
	アミアン、BM, Ms. 9	780 年以前	<i>Prophetia Danielis</i> ; <i>Dodecapropheton</i>	幾何学文・半バルメット文イニシアル	A-18	
	アミアン、BM, Ms. 10	8/9 世紀	<i>Liber Esdrae</i>	半バルメット文のある簡素なイニシアル	A-19	
	アミアン、BM, Ms. 11	780 年以前	<i>Liber Maccabaeorum</i>	簡素な半バルメット文イニシアル	A-20	
	アミアン、BM, Ms. 12	780 年以前	<i>Liber Proverbiorum</i> ; <i>Liber Ecclesiastes</i> ; <i>Canticum Canticorum</i> ; <i>Liber Sapientiae</i> ; <i>Liber Ecclesiasticus</i>	線描の無いイニシアル、半バルメット文イニシアル	A-21	
	アミアン、BM, Ms. 172, fols. 12r-91v	8/9 世紀	<i>Evangelistarium</i>	渦巻きモチーフのある簡素な金字イニシアル	A-22	
	アミアン、BM, Ms. 18	9 世紀初頭	<i>Psalterium Gallicanum</i> , <i>Cantica</i> ; <i>Fides Athanasii</i> ; <i>Litaniae</i>	鳥魚文イニシアル、幾何学文イニシアル、形象イニシアル	A-23	figs. 3, 5, 8, 10, 12
	パリ、BN, Ms. lat. 4884	9 世紀初頭	<i>Chronicon</i>	形象イニシアル	A-24	fig. 13

書料による時代区分	所蔵先・所蔵番号	制作年代	テキスト	ミニアチュール	本稿でのカタログ番号	図版
マウールドラムス型	パリ、BN, Ms. lat. 13025, fols. 1r-74v	9世紀初頭	Donatus, <i>Ars Minor</i> ; Servius, <i>De Finalibus</i> ; <i>De octo partibus orationis</i> ; <i>De Litteris Latinis</i> ; <i>De Hebraeis Litteris</i> ; Ars Maior; Isidorus, <i>De Orthographia</i> ; Agroecius, Terentius Scaurus, Cassiodorus, <i>De Accentis</i> ; Isidorus, <i>Ethmologiae</i> , I, <i>Declinatio Nominum</i> ; <i>Expositio de Arte Maiore</i> ; <i>Expositio de Arte Minore</i> ; <i>Iustitia Quid est</i> ; Isidorus, <i>De Figuris</i> ; <i>Interrogatio de Grammatica</i> ; Sergius, <i>In Donatum</i> ; Beda, <i>De Arte Metrica</i> ; <i>De Schematibus</i>	幾何学・半バルメット文イニシアル、鳥文イニシアル、動物文イニシアル、形象イニシアル	A-25	fig. 14
	アミアン、BM, Ms. 426, fols. 1r-29v	8/9世紀、9世紀第2-3半期	<i>Grammatica. De declinationibus</i> ; <i>Expositio in Donatum Quae sunt quae omnem</i> ; <i>Aggressus quidam</i> ; <i>Ars Phocae</i>	幾何学文イニシアル	A-26	
	パリ、BN, Ms. lat. 12260	8/9世紀	<i>Martyrologium</i> ; Gregorius, <i>Regula Pastoralis</i>	簡素な幾何学・半バルメット文イニシアル	A-27	
	パリ、BN, Ms. lat. 12171	8世紀末	Augustinus, <i>In Psalmos</i> , I-XXX	簡素な幾何学文イニシアル	A-28	
	パリ、BN, Ms. lat. 12174	9世紀第1-4半期	Augustinus, <i>In Psalmos</i> , LI-LX	魚文イニシアル	A-29	
	パリ、BN, Ms. lat. 12176	9世紀初頭	Augustinus, <i>In Psalmos</i> , LXXI-LXXX	イニシアル	A-30	
	パリ、BN, Ms. lat. 12183	9世紀第1-4半期	Augustinus, <i>In Psalmos</i> , CXLI-CL	線描による祝福する人物	A-31	
	パリ、BN, Ms. lat. 1750, fols. 29r-38v	9世紀初頭	Junilius, <i>De Partibus divinae legis</i>	簡素な幾何学イニシアル（渦巻きモティーフ）	A-32	
	サンクトペテルブルク、NL, Lat. F v l 13	9世紀第1-3半期	Origenes, <i>In Leviticum</i>	植物文イニシアル	A-33	
	アミアン、BM, Ms. 404, fols. 58r-107v	9世紀第3-3半期	Juvencus, <i>Historiae Evangelicae</i> , Libri IV	簡素な幾何学文（組紐文）イニシアル	A-34	
	パリ、BN, Ms. lat. 13351	9世紀初頭	Hieronymus, <i>In Expositione epistolae Pauli ad Ephesios</i>	植物文イニシアル	A-35	
	パリ、BN, Ms. lat. 12218	8/9世紀（8世紀末？）	Augustinus (Quodvultdeus), <i>Adversus Quinque Hereses</i> ; Ps. Augustinus (? Evodius), <i>De Fide</i> ; Augustinus, <i>Adversus Manicheos</i> ; <i>Contra Maximum</i> ; <i>Collatio Contra Pascentium</i>	イニシアル	A-36	
	パリ、BN, Ms. lat. 13369	9世紀第1-4半期	Augustinus, <i>Contra Academicos</i> ; <i>De Ordine</i> ; <i>De Natura et Origine Animae</i> ; <i>Contra Sermonum Arrianorum</i> ; <i>De Quantitate Animae</i> ; <i>De Natura Animae</i>	簡素な幾何学文イニシアル	A-37	
	パリ、BN, Ms. lat. 13375	9世紀第1-4半期	Augustinus, <i>De Musica</i>	簡素な装飾大文字	A-38	
	パリ、BN, Ms. lat. 12275, fols. 2r-129v	8/9世紀	Beda, <i>In Parabolas Salamonem</i>	簡素な幾何学文イニシアル	A-39	
	パリ、BN, Ms. lat. 12276	9世紀第1-4半期	Beda, <i>In Canticum Canticorum</i>	半バルメット文のある簡素なイニシアル	A-40	
	パリ、BN, Ms. lat. 14088	9世紀初頭	Beda, <i>De Arte Metrica</i> ; <i>De Schematibus</i> ; Gennadius, <i>De Ecclesiasticis Dogmatibus</i> ; <i>Hymni in Anno Circulo</i> ; <i>Partes Orationis Quot Sint</i> ; Donatus, <i>Ars Maior</i> ; Beda, <i>De Natura Rerum</i> ; <i>De Temporibus</i> ; Augustinus, <i>Enchiridion</i> ; Gennadius, <i>De Ecclesiasticis Dogmatibus</i> , XXIII-LV, Isidorus, <i>De Hereticis</i> ; <i>De Philosophis Gentium</i> ; <i>De Sybilis</i> ; <i>De Magis</i> , <i>De Paganis</i> ; <i>De Diis Gentium</i>	半バルメット文、幾何学文、渦巻きモティーフのある簡素なイニシアル	A-41	
	パリ、BN, Ms. lat. 14087, fols. 99r-102v	9世紀第1/2-4半期	Priscianus, <i>Institutio de nomine, pronomine et verbo</i>	組紐文イニシアル	A-42	
	パリ、BN, Ms. lat. 12527	8/9世紀、9世紀第3-4半期	Eusebius Rufinus, <i>Historia Ecclesiastica</i> , VI-X	植物文、組紐文、渦巻きモティーフのあるイニシアル	A-43	
	パリ、BN, Ms. lat. 8777	9世紀第1/2-4半期	<i>Commentarium Notarum Tironianum</i>	幾何学文・組紐文・半バルメット文装飾文字	A-44	
a b 型	パリ、BN, Ms. lat. 12155	8世紀後半	Hieronymus, <i>In Hiezechielem</i>	インキビット・ページの装飾文字、組紐文イニシアル、幾何学文イニシアル、魚文イニシアル	A-45	
	パリ、BN, Ms. lat. 11681, fols. 4r-196v	8世紀後半	Beda, <i>In Lucam</i>	組紐文イニシアル	A-46	

書体による時代区分	所蔵先・所蔵番号	制作年代	テキスト	ミニアチュール	本稿でのカタログ番号	図版
a b 型	バリ、BN, Ms. lat. 11627	8 世紀後半	Hieronymus, <i>In Isaiam</i>	組紐文のアーチとコラム、鳥に乗る人物像のあるインキビット・ページ、組紐文イニシアル、鳥魚文イニシアル	A-47	
	バリ、BN, Ms. lat. 13048, fols. 31r-58v	8 世紀	<i>Versus Probae</i> ; Fortunatus, <i>Carmina selecta</i>	同心円状の天井のエルサレムのようなミニアチュール、組紐文イニシアル、幾何学文イニシアル	A-48	
	バリ、BN, Ms. lat. 12217	8/9 世紀	<i>Solutiones Dicersarum Quaestionum</i> ; Augustinus, <i>Contra Adamantiumm, Contra Varimadum</i>	組紐文イニシアル	A-49	
	バリ、BN, Ms. lat. 12135	8 世紀後半	Ambrosius, <i>Hexameron</i>	鳥魚文イニシアル	A-50	fig. 1
カロ リ ン グ 小 文 字	バリ、BN, Ms. lat. 11637	9 世紀中葉 - 第 3 四半期	Augustinus, <i>De Civitate Dei</i> , XI-XXII	着色された硬質な線による組紐文イニシアル	A-51	
	ヴァティカン、BAV, Vat. lat. 630	9 世紀中葉	Decretales Pseudo-Isidoriani; <i>Nomina Pontificum Romanorum</i>	鳥頭付き組紐文イニシアル	A-52	
	バリ、BN, Ms. lat. 12294	845 年以降	Radbertus, <i>In Lamentationes</i>	着色された硬質な線による組紐文・半バルメット文イニシアル	A-53	
	バリ、BN, Ms. lat. 18296, fols. 36r-67v	9 世紀第 3 四半期	<i>Vita Adalhardi</i>	有髭の修道士の線描	A-54	
	バリ、BN, Ms. lat. 12050	853 年、或いはそれ以降	<i>Antiphonale</i> ; <i>Sacramentarium Gregorianum</i> ; <i>Missa de inventione crucis</i> ; <i>Supplementum</i>	アカンサス・半バルメット文の枠取りのあるイニシアル頁、金字による組紐文イニシアル、アカンサス	A-55	fig. 15
	バリ、BN, Ms. lat. 12051, fols. 6r-273v	9 世紀中葉	<i>Sacramentarium Gregorianum</i>	緋紫色羊皮紙の上に組紐文・アカンサス文を持つ枠取と金銀彩色の組紐文イニシアル、植物文・組紐文イニシアル	A-56	
	バリ、BN, Ms. lat. 12125	9 世紀第 2 四半期 - 中葉	Pamphilus, <i>Apologia</i> ; Origenes, <i>De Pringipiis</i>	組紐文・鳥文イニシアル	A-57	
	アミアン、BM, Ms. 425	9 世紀第 3/4 四半期	Priscianus, <i>Institutiones Grammaticae</i> , I, IV-V, VI, VI-VII	獣頭を持つ組紐文イニシアル、未完成(?)のイニシアル(後補?)	A-58	
	バリ、BN, Ms. lat. 12221	9 世紀中葉	Augustinus, <i>Contra Cresconium</i>	組紐文イニシアル	A-59	
	バリ、BN, Ms. lat. 13362	9 世紀中葉 / 第 3 四半期	Augustinus, <i>De catechizandis rudibus</i>	歯状模様のある簡素なイニシアル	A-60	
	バリ、BN, Ms. lat. 8090	9 世紀第 2 四半期 / 中葉	Fortunatus, <i>Carmina</i> , Libri XI; <i>Vita Martini</i> ; <i>In Laude S. Mariae</i> ; <i>Vita Medardi</i>	鳥頭付き組紐文イニシアル	A-61	
古 典 写 本	バリ、BN, Ms. lat. 7501	9 世紀第 3 四半期	Priscianus, <i>Institutiones grammaticae</i> , I-XVIII	半バルメット文・組紐文イニシアル	A-62	
	サンクトペテルブルク、NL, Lat. F v 1 Class.	9 世紀第 3 四半期	Lucius Junius Moderatus Columella, <i>De Re Rustica</i>	組紐文イニシアル	A-63	
	バリ、BN, Ms. lat. 8051	9 世紀中葉 / 第 3 四半期	Statius, <i>Thebaid</i>	半バルメット文・植物文・組紐文イニシアル	A-64	
	バリ、BN, Ms. lat. 7900	9 世紀中葉 / 第 3 四半期	Terentius, <i>Comoediae</i>	線描挿絵	A-65	
	バリ、BN, Ms. lat. 13955	9 世紀中葉 / 第 3 四半期	Priscianus, <i>Institutiones grammaticae</i> , XIV, XV, <i>Musica enchiridiadis</i> , Boethius, <i>In Isagogen</i> , Martianus Capella, <i>De Astronomia</i> ; Boethius, <i>De Musica</i> ; Boethius, <i>Arithmetica</i> , Agrimensores; Boethius, <i>De Arte Geomrtiae</i> ; De Mensuris; De Ponderibus; Frontinus	線描による図	A-66	
	フィレンツェ、BML, San Marco 257	9 世紀第 3 四半期	Cicero, <i>De Natura Deorum</i> ; <i>De Divinatione</i> ; Timaeus, <i>De facto</i>	アカンサスのあるアーチの下に胸像のメダイヨン付きの組紐文イニシアル	A-67	
	サンクトペテルブルク、NL, Lat. F v 1 7, fols. 1r-40v	8 世紀	Gregorius Magnus, <i>Epistolae Selectae</i>	鳥文イニシアル	A-68	
	バリ、BN, Ms. lat. 12957	9 世紀	Boethius, <i>Grammatica</i>	線描による挿絵	A-69	
	バリ、BN, Ms. lat. 12634; サンクトペテルブルク、NL, Lat. Q v 1 5	7/8 世紀	Maximus Taurinensis, <i>Homiliae</i>	魚文・幾何学文イニシアル	A-70	
	ラン、BM, Ms. 328 bis	9 世紀第 1 四半期	Cassianus, <i>De institutis coenobiorum</i>	彩色のイニシアル	A-71	
輸 出 用 写 本	サン＝クロード、BM, Ms. 1	9 世紀	Ambrosius	鳥文・組紐文イニシアル	A-72	

[B- コルビー修道院外で制作されたコルビー所蔵の写本]

書体による時代区分	所蔵先・所蔵番号	制作年代	制作地	テキスト	ミニチュール	本稿でのカタログ番号	図版
メロヴィング朝写本	パリ、BN, Ms. lat. 17655	7 世紀	リュクスイユ或いはコルビー	Gregorius Turonensis, <i>Historia Francorum</i>	装飾文字、幾何学文イニシアル、古代末期風の鳥魚文イニシアル	B-1	
	パリ、BN, Ms. lat. 12097	524 年以降	不明	<i>Canones Galliae (Collectio Corbiensis)</i>	鳥魚文・幾何学文イニシアル	B-2	
	パリ、BN, Ms. Nouv. Acq. lat. 2061	7-8 世紀	不明	Gregorius, <i>Moralia in Iob</i> , l. 18-V. 38	幾何学文・鳥魚文イニシアル	B-3	
	パリ、BN, Ms. lat. 12168	750-770 年頃	北フランス(ラン?)	Augustinus, <i>Quaestiones in Heptateuchem</i> , I-IV	動物文イニシアル、獣頭・鳥頭付きの組紐文イニシアル、インスラー風の装飾文字	B-4	
	パリ、BN, Ms. lat. 18315	8 世紀中葉	不明	<i>Vita Sancti Wandregisili</i>	組紐文イニシアル	B-5	
	パリ、BN, Ms. lat. 12598	8 世紀後半	不明	<i>Vita Martiniae, Virtutes Martini, Vita Remedii, Vita Medardi, Vita Vedastis, Passio Fusciani et Victorii, Passus Iusti martyris, Passio Lucani martyris, Passio Crispini et Crispiniani, Passio Mathaei, Vita Servati, Vita Landeberti, Passio Caeciliae, Passio Euphemiae, Passio Agnetis, Passio Agathae, Passio Lucae, Passio Columbae, Vita Germani excerpta, Passio Julianae</i>	簡素な組紐文イニシアル	B-6	
	サンクトペテルブルク、NL, Lat. Q v l 14	8 世紀	リュクスイユ或いはコルビー	Gregorius, <i>Homiliae in Ezechielem pars prima</i>	幾何学模様のアーチ・十字架装飾のあるインキビット/エキスプリキット・ページ、ロゼッタ文のイニシアル	B-7	
	パリ、BN, Ms. lat. 14086	8 世紀前半	フランス	Isidorus, <i>Synonyma</i> ; Augustinus, <i>De die iudicii</i> ,	魚文・幾何学文イニシアル	B-8	
インスラー写本	パリ、BN, Ms. lat. 12292, fols. A-D	8-9 世紀	不明	<i>Liber quaestionum in evangelis</i>	線描による四足獣(損傷)	B-9	
	パリ、BN, Ms. lat. 17177+ヴァティカン、BAV, Reg. lat. 340	不明	不明	Theodorus Mopsuestenus, <i>In Epistulas Pauli</i>	インスラー風の点状装飾のあるイニシアル	B-10	
	サンクトペテルブルク、NL, Lat. Q v XIV 1	8 世紀中葉	イングランド	Paulinus Nolanus, <i>Carmina de Sancto Felice</i>	「サムエルによるダヴィデの塗油」、「ダヴィデとゴリアテの戦い」の線描挿絵	B-11	fig. 11
カロリング朝写本	パリ、BN, Ms. lat. 12178	9 世紀第 1 四半期	北東フランス	Augustinus, <i>In Psalmos</i> , LXXXI-C	組紐文イニシアル	B-12	
	パリ、BN, Ms. lat. 13396	800 年頃	北東フランス(コルビー?)	Isidorus, <i>Contra Iudaeos</i>	献呈図、植物文・鳥魚文イニシアル、人頭付き組紐文イニシアル	B-13	fig. 7
	サンクトペテルブルク、NL, Lat. Q v l 40	8/9 世紀あるいは 9 世紀初頭	カール大帝宮廷派	Terttuian, <i>Apologeticum</i>	金地を背景とするイニシアル	B-14	
	パリ、BN, Ms. lat. 12150	800 年頃	北東フランス	Hieronymus, <i>In Psalmos</i>	獣頭・鳥頭・渦巻文・波状文のあるイニシアル	B-15	fig. 6
	パリ、BN, Ms. lat. 13386, fols. 1r-102v	8/9 世紀	サン=リキエ	Vincentius Lirinensis, <i>Contra haereticos</i> ; Theophilus, <i>Epistula paschalis</i> ; Epiphanius, <i>Ad Hieronymum</i> ; Augustinus, <i>Sermo</i>	組紐文・魚文イニシアル	B-16	
	パリ、BN, Ms. lat. 11699, fols. 3r-211v	9 世紀第 1 四半期	北東フランス	<i>Homiliarum</i>	バルメット文のような波状装飾、渦巻モチーフのある組紐文イニシアル、鳥(孔雀?)による形象イニシアル V	B-17	
	パリ、BN, Ms. lat. 4950	9 世紀初頭	北フランス	Iustinus, <i>Epitome</i>	獣頭・半バルメット文・渦巻モチーフのある組紐文イニシアル	B-18	
	パリ、BN, Ms. lat. 13024	9 世紀第 1/2 四半期	コルビー?	<i>Ars probi grammatici</i>	植物モチーフのある簡素なイニシアル、渦巻モチーフのある幾何学文イニシアル	B-19	
	パリ、BN, Ms. lat. 12141, fols. 8r-132v	9 世紀第 2 四半期	コルビー周辺	Chrysostomus, <i>Sermones</i> , XXXVII	馬蹄形アーチ、半バルメット文・獣頭・人頭のある組紐文イニシアル、線描による対の四足獣	B-20	
	パリ、BN, Ms. lat. 13759	9 世紀第 1 四半期	トゥール	<i>Martinellus</i>	半バルメット文のある組紐文イニシアル、半バルメット文イニシアル	B-21	

書体による時代区分	所蔵先・所蔵番号	制作年代	制作地	テキスト	ミニチュール	本稿でのカタログ番号	図版
カロリング朝写本	ヴァティカン、BAV, Vat. lat. 990	9世紀第1/2四半期	宮廷周辺?西フランス?	Jonas, <i>De Institutione Laicali</i>	組紐文イニシアル	B-22	
	ダルムシュタット、LB, Hs. 1489, fols. 59r-142v	840年頃	北東フランス(コルビー周辺?)	Augustinus, <i>Sermones (Collectio de Alleluia)</i>	黒い簡素なイニシアル	B-23	
	パリ、BN, Ms. lat. 13354	9世紀第1三半期	コルビー周辺	Hieronymus, <i>Contra Jovinianum</i>	幾何学文・半パルメット文イニシアル	B-24	

3. 鳥魚文・動物文イニシアルの発展

メロヴィング朝期のコルビー修道院では、組紐文や幾何学文によるカーペット・ページやインキピット・ページ、鳥魚文や動物文から成るイニシアルが、写本彩飾の大半を占めていた。そしてこうした人間像を伴わない装飾は、インスラーの写本芸術の他、コルビーの母修道院であるリュクスイユから更に遡り、ボッピオなど北イタリアの修道院を起源としていた。例えばリュクスイユの『サクラメンタリウム』写本(ヴァティカン、教皇庁図書館、Reg. lat. 317)やコルビーの『聖バレイオスの規則』写本(サンクトペテルブルク、国立図書館、Lat. F v I 2 / Cat. A-2)のロゼッタ文とアーチのある柱廊のミニチュールは、北イタリア作と想定される写本(パリ、国立図書館、Ms. lat. 2769)にその起源が求められると指摘されている他¹⁹、コルビーで制作されたアウグスティヌス写本の冒頭に挿入された組紐文によるカーペット・ページ(パリ、国立図書館、Ms. lat. 12190, fol. Av / Cat. A-6)は、対向頁のイニシアルのインスラー風の組紐文(fol. 1r)との様式的差異より、地中海沿岸で制作されたものがカロリング朝期までにコルビーの地に齎されたと推測されている²⁰。

鳥や魚を組み合わせて文字を作る鳥魚文イニシアルは、古代末期写本に既に見られたが²¹、7-8世紀にはオレンジや緑、黄色を基調とした鮮やかな文字装飾として様式化された。この鳥魚文イニシアルは、メロヴィング朝期の写本字装飾の常套手段として定着し、非常に多くの地域で用いられた為に、コルビーの地にも齎されていた。7世紀にリュクスイユ或いはコルビーで制作され、カロリング朝期のコルビー修道院の図書室に所蔵されていたと考えられている『フランク史』写本(パリ、国立図書館、Ms. lat. 17655 / Cat. B-1)には既に鳥魚文イニシアルが散見されるが²²、8世紀後半にコルビーで制作されたヒエロニムスの『エゼキエル書注解』写本²³(パリ、国立図書館、Ms. lat. 12155 / Cat. A-45)やアンブロシウスの『ヘクサメロン』写本(パリ、国立図書館、Ms. lat. 12135, fig. 1 / Cat. A-50)では、文字装飾を担う鳥や魚のモチーフは金工品のようにパターン化され、O、ペヒトが指摘するように、その色鮮やかさの為に個々のモチーフは解体されている²⁴。

《コルビー詩編》にもモチーフとして鳥や魚を用いたイニシアルは見られるが²⁵、同写本のイニシアルではメロヴィング朝写本のこうした典型的な鳥魚文イニシアルをそのまま模倣したというよりは、より多くの手本に由来する多様なモチーフが段階的に混交し発展していったと考えられる。アンブロシウスの『ルカ福音書注解』写本(サンクトペテルブルク、国立図書館、Lat. F v I 6, fig. 2 / Cat. A-7)では、コンパスを用いて描いた半円を組み合わせ、そこに鳥のモチーフを沿わせることでSの文字を形成し、パルメットのような植物文を加えることで装飾性を高めている。《コルビー詩編》第11編のイニシアルS(fig. 3)も同様に、コンパスによる二つの円弧の補助線によって文字の輪郭を設定し、そこに二羽の鳥を沿わせることで形成されている。鳥モチーフは二重の輪郭線によって平面化されているものの、胴体を分断する鮮やかな色彩によって解体されるのではなく、胴体と翼部を各一色ずつに抑えることで個々のモチーフの同一性が保たれ、

装飾性は二つの円弧に取り付けられた組紐モチーフによって付加されている。

鳥や魚を装飾パターンに還元せず、個々のモチーフの同一性を保証することで、描かれた生物に一定の量感と写実性を与えるというこの手法は、《コルビー詩編》のイニシアル全般に見られるものであり、8世紀半ばには既にその前例が見られた。それとほぼ同時期に並行して同修道院の写本彩飾で獲得されたのが、文字を構成する動物の有機的な運動性である。8世紀中葉の北仏で制作されコルビーに所蔵されていた、鳥頭付きの組紐文等にインスラー写本の強い影響が見られるアウグスティヌス写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 12168 / Cat. B-4）では、文字を構成する動物が胴体を捻り頭や肢体を動かすことでアクロバティックな動きを見せていることが既に指摘されている²⁶。それよりやや時代の下る8世紀末にコルビー修道院内で制作された写本では、身体の同一性を保ちつつ運動性を示す動物文イニシアルが現れる。修道院長マウルドラムヌスのもとで制作され、カロリング小文字の完成に於いて決定的な役割を果たした《マウルドラムヌス聖書》（アミアン、市立図書館、Ms. 7, fig. 4 / Cat. A-16）では、イニシアル P の柱身を幾何学模様のパターンが、円弧を犬のような四足獣が担っている。四足獣の身体は、薄い黄色と背から臀部にかけて描き込まれた毛のような陰影の二色のみで着彩され、その胴体から四肢に至るまでの一貫した同一性と写実性が担保されている。それと同時に、獣がその頭を大きく振り返らせることで、生き生きとした動きを示しながら読者の視線を後続のテキストへと促しているのである。この《マウルドラムヌス聖書》の四足獣の隆々とした四肢や長い耳を持つ獣頭の描写は、《コルビー詩編》のイニシアル D (fig. 5) の四足獣と類似しており、《マウルドラムヌス聖書》で完成された写実的で活気ある動物文イニシアルが、《コルビー詩編》へと受け継がれたと考えられる。

《コルビー詩編》第109編イニシアル D (fig. 5) では、アクロバティックな身体の捻りを見せる《マウルドラムヌス聖書》の動物文イニシアルとは異なり、互いに噛み合う大小の三頭の獣による三つ巴の渦によって、流転するようなイニシアルの動きが作られている²⁷。メロヴィング朝写本の典型的な鳥魚文イニシアルとは決定的に異なる、ペヒトが「万華鏡的変貌²⁸」と名付けたこの複数の動物モチーフの絶え間ない流転運動は、その前段階が幾分素朴な形で、同修道院の所有していた他の写本に既に現れているのである。800年頃の北東フランスの作であるヒエロニムスの『詩編注解』写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 12150 / Cat. B-15）は簡素ながらも、後期メロヴィング朝から初期カロリング朝のコルビーで制作された写本と同様の、幾何学形体による文字の基本構造に鳥や犬を添えたイニシアルだけではなく、変形する複数の動物を組み合わせて作るイニシアル D を備えている (fig. 6)。ここでは向かい合う二匹の犬がアンシャル体の D の文字の円形部を、そしてもう一つの首を伸ばした犬のモチーフが文字の緒部を構成しており、三つの犬のような動物モチーフを組み合わせて文字を形作る手法は《コルビー詩編》と類似している。しかしこのイニシアルでは獣はそれぞれ、四肢まで描かれることが放棄され、互いのモチーフの結節点で突如として完結させられるか、他のモチーフによってその接合点の処理が隠されている。それに対して《コルビー詩編》では、獣が向かい合うのではなく一定の方向、即ち時計回りに向きを変えられ、更に互いに尾を噛み合わせ、犬の肢体まで描き切ることで、流転運動と写実性の両方が獲得されているのである。

《コルビー詩編》のアンシャル体の D を用いたイニシアルには、こうした動物モチーフ自体によって文字を構成するものに加え、インスラー写本に特徴的なリボン状の線で文字を描くものが散見される点に、インスラー芸術の強い影響が看取できる²⁹。《コルビー詩編》にはコロフォン（奥付）が無く写本画家の名や出自も不詳だが、こうした文字の装飾方法は、仮に画家がインスラーの出身ではなかったとしても³⁰、イン

スラー芸術の強い影響下にある大陸写本の先行例から説明することが出来るだろう。800 年頃の作であり、カロリング朝期のコルビーにあったことが分かっているイシドルス写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 13396 / Cat. B-13）は、組紐文イニシアルや先述のアンブロシウス写本（fig. 2）に類似した鳥魚文イニシアルだけではなく、イシドルスとフロレンティナの全頁大の献呈図³¹を持つ、所謂メロヴィング朝、インスラー、そして素朴ながらも古代末期の人物像表現という、起源の異なる複数の要素が混交した挿絵入り写本である。同写本のイニシアル D（fig. 7）では、インスラー・アンシャル体の D の楕円部をリボンで形成し、朱による点描で囲み、その一方の末端部に人頭と鳥頭による装飾を付け加え、もう一方の末端部を組紐文に変えるという、インスラー写本に特徴的な装飾方法をとっている。これと類似した装飾文字が、《コルビー詩編》第 78 編イニシアル D（fol. 72v, fig. 8）に現れている。薄茶色と濃茶色で陰影の付けられたリボン状の帯がアンシャル体の D の楕円部を成し、一端は犬に似た獣に噛みつかれる有翼獣へと、もう一端は自らの耳或いは角から変化した組紐に絡め取られる有翼獣へと変化している。リボンの上端を動物モチーフで装飾し、文字の開口部を組紐文で充填し、その地を緑色で着色するという基本的な文字の装飾方法は両写本間で類似していることから、イシドルス写本に見られるようなイニシアル D がコルビー修道院のスクリプトリウムで知られていた可能性は十分考えられるだろう。但し《コルビー詩編》では、リボン状装飾に鳥頭や人頭といったモチーフの一部のみが取り付けられるのではなく、有機的形体であるリボンから有機的生命体である有翼獣へと暫時的に変貌しており、更に開口部の有翼獣が文字を構成する帯を噛み、その隙間を埋める組紐モチーフの一端が“Deus”の短縮記号へと変化することで、文字の形体と動物モチーフ、そして後続のテキストとの繋がりをより堅固なものとしている。インスラー写本に由来する装飾方法を用いながらも、《コルビー詩編》では、細部まで描き込まれた動物モチーフによって、文字の形体とモチーフとの間に有機的連関と活気が与えられているのである。

メロヴィング朝的な鳥魚文イニシアルと、リボン状装飾や鳥頭・獣頭といったインスラー写本に由来する装飾モチーフが、8 世紀後半に北東フランスで混交し、コルビー修道院へと齎され所蔵されていた。そして、《コルビー詩編》のイニシアルは、そうした先行する写本の文字装飾に範を得ながらも、鳥や四足獣といった動物モチーフの写実性や運動性を発展させる形で成立していたのである。

4. 人物像表現

メロヴィング朝期からカロリング朝期にかけてのコルビー修道院に於いては、現存する写本から判断する限り、人物像による挿絵を持つ写本は制作・所蔵ともに稀であったと考えられる。このことは、12 世紀の同修道院の蔵書目録に、“psalterium depictum（絵の施された詩編）”という言葉で記されている写本が、どうやら人物像による多くの挿絵を持つ《コルビー詩編》を指していることから推測できる³²。

8-9 世紀のコルビーで制作された、或いは他地域で制作されカロリング朝期までにコルビーに所蔵されていた写本のうち、人間像による写本挿絵として、先述のイシドルス写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 13396 / Cat. B-13）の、イシドルスとフロレンティナによる献呈図の全頁大挿絵（fol. 1v）が挙げられる。《コルビー詩編》と時を殆ど違わず制作された同写本の冒頭には、組紐文装飾を持つアーチの下で、著者イシドルスと書物を受け取るフロレンティナが線描で描かれており、身体の量感の減じられた力強いながらも素朴な人物像表現は、《コルビー詩編》の人物像とはかけ離れている。

人物像の量感ある有機的身体表現という点では、やや時代の遡るコルビーの作であるヒエロニムス写



fig. 1 アンブロシウス『ヘクサメロン』
8世紀後半、コルビー
パリ、国立図書館、Ms. lat. 12135, fol. 1v



fig. 2 アンブロシウス『ルカ福音書注解』
8世紀中葉、コルビー
サントベテルブルク、国立図書館、
Lat. F v I 6, fol. 1r



fig. 3 《コルビー詩編》第11編
800-810年頃、コルビー
アミアン、市立図書館、
Ms. 18, fol. 10r



fig. 5 《コルビー詩編》第109編
800-810年頃、コルビー
アミアン、市立図書館、Ms. 18, fol. 94r

fig. 4 《マウルドラムヌス聖書》
780年以前、コルビー
アミアン、市立図書館、Ms. 7, fol. 60r



fig. 6 ヒエロニムス『詩編注解』
800年頃、北東フランス
パリ、国立図書館、Ms. lat. 12150, fol. 107r



fig. 7 イシドルス『コントラ・ユダエオス』
800年頃、北東フランス(コルビー?)
パリ、国立図書館、Ms. lat. 13396, fol. 90v



fig. 8 《コルビー詩編》第78編
800-810年頃、コルビー
アミアン、市立図書館、Ms. 18, fol. 72v



fig. 9 ヒエロニムス『書簡』著者像ヒエロニムス
8世紀、コルビー
サンクトペテルブルク、国立図書館、Lat. Q v I 13, fol. 3v



fig. 10 《コルビー詩編》第1編
800-810年頃、コルビー
アミアン、市立図書館、Ms. 18, fol. 1v



fig. 11 ノラのパウリヌス『聖フェリックスの歌』
8世紀中葉、インスラー
サンクトペテルブルク、国立図書館、
Lat. Q v XIV 1, fol. I

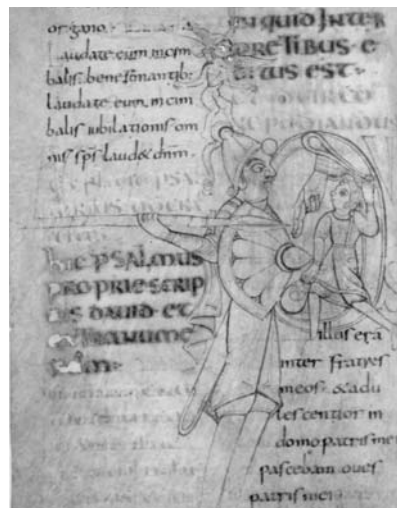


fig. 12 《コルビー詩編》第151編
800-810年頃、コルビー
アミアン、市立図書館、Ms. 18, fol. 123v



fig. 13 『世界年代記』
9世紀初頭、コルビー
パリ、国立図書館、Ms. lat. 4884, fol. 1r



fig. 14 『文法書』
9世紀初頭、コルビー
パリ、国立図書館、Ms. lat. 13025, fol. 14r



fig. 15 『サクラメンタリウム』
853年、或いはそれ以降、コルビー
パリ、国立図書館、
Ms. lat. 12050, fol. 23r

本(サンクトペテルブルク、国立図書館、Lat. Q v I 13 / Cat. A-1)が興味深い例として挙げられる。メロヴィング朝期のコルビー修道院で制作された同写本は、半パルメット文付き幾何学文・魚文イニシアルの他、冒頭に著者像としてのヒエロニムスの全頁大挿絵を備えている(fig. 9)。柱頭付きの柱に支えられた古代ローマ風の半円アーチと、カピタリス・クワドラータによる銘文、その下に座す著者ヒエロニムスの身体、僅かに残された有機的な量感と動きは、このミニアチュールが古代末期の写本挿絵を手本としただろうことを推測させる³³。《コルビー詩編》の第1編(fig. 10)でも、全頁大挿絵として描かれたイニシアルBの上段に、詩編著者ダヴィデが著者像として表されている。イニシアルの文字形体を枠としてその中に座している為、ダヴィデの身体はヒエロニムス像より正面性が減じられれば四分の三正面とされているが、右足を一步手前へ踏み出すことによる緩やかな身体の動きは共通しており、ダヴィデ像では肩から足元へと流れ落ちるマントや差し伸ばされた腕の袖、膝にかかる衣服のドレイパリーが整理されることで、より明瞭な身体表現に成功している。ヒエロニムス像が両手で書物を持つのに対し、ダヴィデ像は片手でペンをインク壺に浸し、もう一方の手で書物を持っているので、《コルビー詩編》の写本画家はダヴィデを描くに際して、ヒエロニムス像だけではなく他の手本も参照した筈である。但し、このヒエロニムス像の全頁大挿絵は、《コルビー詩編》の画家が古代末期を手本とするメロヴィング朝写本、或いは古代末期の写本挿絵を直接参照し得たこと、そして鳥魚文動物文イニシアルの場合と同様に、文字の形状を用いながら、モチーフのより自然主義的で有機的な表現を獲得したことを示しているのである。

古代末期写本のコピーと並んで、カロリング朝期のコルビー修道院図書館が所蔵していた人物像による挿絵を持つ写本として、インスラー写本も僅かながら存在したと考えられる。初期中世のブリテン諸島では人物像表現はそもそも稀であったものの、《リンディスファーン福音書》(ロンドン、大英図書館、Cotton MS Nero D.IV)で知られるように、7-8世紀のノーサンブリア・ルネサンスと称される文化的興隆期には、地中海地方やビザンティン世界から、古代末期写本を中心とした人物像の描写を輸入していた³⁴。カロリ

ング朝期のコルビーには、この時期のインスラーの挿絵入り写本が少なくとも1点は存在していたことが分かっている。パウリヌスの『聖フェリクス之歌』写本（サンクトペテルブルク、国立図書館、Lat. Q v XIV 1, fig. 11 / Cat. B-11）であり、写本冒頭部のフォリオには「サムエルによるダヴィデの塗油」、「ダヴィデとゴリアテの戦い」の場面が銘文付きで、上下に分けられて描かれている³⁵。人物像の表現としては、身体は輪郭線の端的な描写のみに抑えられ、鉄描線による厳格な様式化が見られる。太い線によるドレイバリーの描写によって身体の量感や動きを示唆させていた上述のヒエロニムス写本とは異なり、このインスラー写本では四肢の動きを説明するのは、ダヴィデやサムエル、ゴリアテの肩から大袈裟な身振りで伸ばされた腕や、輪郭線が重ならないように大きく開かれ或いは屈折させられた両脚、そして身体全体の描写の淡白さに対して細部まで書き込まれ誇張された手の表現である。《コルビー詩編》では第151編イニシャルP（fig. 12）に、「ダヴィデとゴリアテの戦い」の場面が描かれている。インスラーの先行例がゴリアテの首を落とすダヴィデの場面であったのに対し、《コルビー詩編》ではダヴィデのゴリアテへの投石が選択されているので、図像学的には両写本間に血縁関係は見出せない。コルビーの写本画家は寧ろ、従来の研究で指摘されているように、ダヴィデ伝を浮彫として表したキプロス出土の銀皿（7世紀後半、ニューヨーク、メトロポリタン美術館）のような、より自然主義的でナラティヴな同主題の例を目にしていたと考えるほうが妥当である³⁶。しかし、《コルビー詩編》第151編の「ダヴィデとゴリアテ」の人物像では、長槍を握るゴリアテの手、石の入った袋や投石機を持つダヴィデの手が、全身のプロポーションに対してやや大きめに誇張されて描かれており、そして石を投げるダヴィデの腕や踏み出した足が、シルエットのみでもその動きが分かるように、輪郭線の重なりを避けて表されているのが看取される。《コルビー詩編》の人物像表現にしばしば見られる、この手足や四肢を大きく描くことによる行為の誇張は、自然主義的描写を無視し厳しく様式化したインスラー写本の線描挿絵に、その前段階を見出すことが出来るのである。

カロリング朝時代のコルビーのスクリプトリウムで制作された挿絵入り写本のうち、最も多く人間像を持つのは《コルビー詩編》であり、同じ画家の手によるミニチュールと同定されている写本が他に2点確認されている。『世界年代記』写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 4884, fig. 13 / Cat. A-24）と、『文法書』写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 13025, fig. 14 / Cat. A-25）であり、前者は「イヴと蛇」を表した冒頭の物語イニシャルP（fol. 1r）のみ、後者は人物像を持つ形象イニシャル3点（fols. 5r; 14r; 40v）と、鳥魚文や半パルメット文、幾何学文から成るイニシャルを持つ。『世界年代記』のイニシャルPでは、知恵の実を啜えた蛇によって取り囲まれた開口部に、眼を閉じた裸体のイヴが表されており、小さなミニチュールながらも肩にかかった髪や乳房、肘や膝の屈折といった細部まで描き込まれている。対して『文法書』写本のイニシャルでは、テキストの文字の大きさに対してイニシャルが大型化している分、人物像の身体は膨やかなものとなっている。人物像自体が文字の形を担っている為に不自然な形で身体が捻じ曲げられているが、細い線描によるドレイバリーや、Pの文字の柱身を成す人物像の僅かに上下の差を付けられた足によって、量感と僅かな奥行きが示唆されている。

少なくとも現存するカロリング朝期のコルビー写本には、人物像の表現に於いて《コルビー詩編》の写本画家を上回る彩飾写本は無く、人間像を伴う挿絵入り写本は多くは制作されなかったと考えられる。9世紀半ば以降のテレンティウス写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 7900 / Cat. A-65）や『アラテア』写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 12957 / Cat. A-69）といった数点の古典写本に見られる無着彩の素朴な線描挿絵を除いては、コルビーの写本彩飾は人物像の描写を放棄し、専ら組紐文や植物文によるイニシャルやイン

キペット・ページといった装飾に移行したようである。9世紀中葉の『サクラメンタリウム』写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 12050, fig. 15 / Cat. A-55）は、複雑な組紐文や獣頭・鳥頭といったインスラー写本の装飾語彙を基礎としながらも、画面全体を模様で充填するのではなく、ほぼ空の地に硬質で無機質な文字が浮かび上がる、所謂フランコ=サクソン派の写本画様式を示している。植物文と金色の組紐文で飾られた枠内には、金銀の組紐文から成る“Te igitur clementissime”のTEの文字とアカンサスのような植物モチーフが、白地の上に大きく配されている。ほぼ同時期に制作された『サクラメンタリウム』写本（パリ、国立図書館、Ms. lat. 12051 / Cat. A-56）では、“Te igitur”のイニシアル頁をほぼ同じ構図で、緋紫色の羊皮紙の上に金銀の文字と、より文様化された植物モチーフで表している。鳥頭や植物文、組紐文による同写本のその他のイニシアル（fol. 117v）では、凡そ半世紀前の例（fig. 7）のように鳥頭をリボンに唐突に取り付けるのでもなければ、『コルビー詩編』（fig. 8）のようにリボンから有翼獣へ、組紐文へとモチーフを変貌させるのでもなく、鳥頭の端が網状に入り組んだ硬質な組紐文へと入念に解体されており、『コルビー詩編』で獲得されたモチーフの写実性や活気ある運動性は放棄されている³⁷。メロヴィング朝的な鳥魚文イニシアルや、『コルビー詩編』の写本画家に於いて隆盛を極めた人物像による物語イニシアルではなく、フランコ=サクソン派の硬質で静謐な様式が、同修道院のスクリプトリウムで主流となったのである。

結

9世紀前半のフランク王国、即ち、カロリング・ルネサンスの花開くカール大帝とルートヴィヒ敬虔帝との両皇帝の統治下では、宮廷周辺の写本工房を中心として、人間像による豊かな挿絵を持つ豪華写本が数多く制作されるようになっていた。こうしたスクリプトリウムとは異なり、コルビー修道院ではその蔵書収集と写本生産の活発さに反し、人物像を伴う挿絵入り写本の制作は下降線を辿った。9世紀初頭の作である『コルビー詩編』は、その豊富な装飾語彙と人物像表現に於いて同修道院では稀有な例であり、11-12世紀に同修道院内でそのイニシアルの若干のコピーが描かれるまでは³⁸、直接的な後継者を持たなかったようである。

『コルビー詩編』のイニシアルは、鳥魚文や動物文、そして人物像ともに、メロヴィング朝やインスラーに起源を求められる先行例を、コルビー修道院内で所蔵・制作された写本の例を経て継承し、モチーフ其々の写実性や運動性を増す形で発展していた。人物像による物語イニシアルについては、本稿では図像学的手続きを度外視し、その身体描写のみに焦点を合わせたが、図像の豊かさのみならず身体の量感表現からも、同写本の様式が古代末期やインスラーの写本画からのみ成立したとは考え難い。『コルビー詩編』の物語イニシアルは、写本以外の手本、即ち人物像による図像を持つ工芸作品等を写本画家が見ていたことを想定する必要があるだろう。

註

- 1 同写本は現在ではその制作地の名を取り『コルビー詩編』と呼ばれるが、制作地がコルビー修道院に帰される以前は『アミアン詩編』の名で記されることも多かった。例えば古書体学の先行研究と様式判断、来歴から制作地をコルビーと確認したU. クーダーは、同写本を『アミアン詩編』と記述している。KUDER, Ulrich: *Die Initialen aus Amienspsalter (Amiens, Bibliothèque municipale MS 18)*, Ph.D. Diss., Ludwig-Maximilians-Universität, München 1977. 尚、本稿では中心として扱う同写本の通称を作品名として『』で表し、通称の定まっていない写本については『』内の書名と所蔵番号で示す。
- 2 現存するイニシアルは156点だが、本写本は詩編第88-98編が折帖にして1帖分失われており、これに加えて、第53編のイニシアル部分が欠損している。本写本の写本学的詳細については、以下を参照。KUDER 1977, S. 6-20.
- 3 PORCHER, Jean: *Les Manuscrits à peinture*, in: *L'Europe des invasions* (ed. par HUBERT, Jean/ PORCHER, Jean/

- VOLBACH, Wilhelm Friedrich), *L'univers des formes* 12, Paris 1967, p. 199: "C'est un barbare." O. ベヒトも本写本のイニシアルの様式についてボルシェとほぼ同様の見解を示している。PÄCHT, Otto: *The Pre-Carolingian Roots of Early Romanesque Art*, in: *Romanesque and Gothic Art, Studies in Western Art*, 1, Acts of the Twentieth International Congress of the History of Art, Princeton 1963, p. 70.
- 4 KOEHLER, Wilhelm: *Buchmalerei des frühen Mittelalters: Fragmente und Entwürfe aus dem Nachlass*, München 1972, S. 97: "Ein fast isoliertes, ungemein reiches und originelles Produkt, ..."
- 5 KUDER 1977, S. 36.
- 6 COUSIN, Patrice: Les origines et le premier developpement de Corbie, in: GAILLARD, Louis, et al.: *Corbie, abbaye royale: volume du XIII^e centenaire*, Lille 1963, p. 22; GANZ, David: *Corbie in the Carolingian Renaissance*, Sigmaringen 1990, p. 15; *Des manuscrits de l'abbaye de Corbie* (ed. par MÉRINDOL, Christian de/ GARRIGOU, Gilberte), Catalogue de l'Exposition du 10 au 16 Novembre 1991, Corbie 1991, p. 3.
- 7 GANZ 1990, p. 15. コルビー修道院の創立憲章については、以下に詳しい。LEVILLAIN, Léon: *Examen critique des chartes mérovingiennes et carolingiennes de l'abbaye de Corbie*, Paris 1902.
- 8 カロリング小文字の改良と発展については、以下に詳しい。BISCHOFF, Bernhard: *Paläographie des römischen Altertums und des abendländischen Mittelalters, mit einer Auswahlbibliographie 1986-2008 von Walter Koch*, 4. Aufl., Berlin 2009, S. 151-160 [邦訳: 佐藤彰一/瀬戸直彦訳『西洋写本学』岩波書店 2015 年、153-162 頁]; LICHT, Tino: Die älteste karolingische Minuskel, in: *Mittelalterliches Jahrbuch. Internationale Zeitschrift für Mediävistik und Humanismusforschung*, 47, Stuttgart 2012, S. 337-346.
- 9 カール大帝の教育改革に対する態度は、784/785 年の「学問振興に関する書簡 *Epistola de litteris coledis*」、及び「一般訓令 *Epistola generalis*」に現れている。*Monumenta Germaniae Historica, Legum section II: Capitularia regum francorum*, T. I, denuo edidit BORETIUS, Alfredus, Hanover 1883, repr., Stuttgart 1960, pp. 78-81. [大谷啓治訳「カール大帝書簡集」『中世思想原典集成 6: カロリング・ルネサンス』(上智大学中世思想研究所編訳) 平凡社 1992 年、148-151 頁]
- 10 アダルドゥスとワラについては、以下を参照。WEINRICH, Lorenz: *Wala, Graf, Mönch und Rebelle: die Biographie eines Karolingers*, Historische Studien, Heft 386, Lübeck 1963; CABANISS, Allen: *Charlemagne's Cousins: Contemporary Lives of Adalard and Wala*, New York 1967; KASTEN, Brigitte: *Adalhard von Corbie: die Biographie eines karolingischen Politikers und Kloostervorstehers*, Studia humaniora, Bd. 3, Düsseldorf 1986. 尚、コルヴァイ修道院の蔵書を紹介する展覧会が、2011 年にコルヴァイを始めとした各地で開催された。拙稿「一千年を知る——コルヴァイ帝国修道院図書館の復元——(展覧会評)」(*Aspects of Problems in Western Art History*, vol. 11, 2013, 93-98 頁)を参照。
- 11 ハドアルドゥスについては、以下を参照。BISCHOFF, Bernhard: *Hadoard und die Klassikerhandschriften aus Corbie*, in: *Mittelalterliche Studien*, Bd. 1, Stuttgart 1966, S. 49-63.
- 12 MABILLON, Jean: *De re diplomatica*, Paris 1681 [邦訳: 宮松浩憲訳『ヨーロッパ中世古文書学』九州大学出版会 2000 年].
- 13 TOUSTAIN/ TASSIN: *Nouveau traité de diplomatique*, 6 vols., Paris 1750-1765.
- 14 DELISLE, Leopold Vactor: *Recherches sur l'ancienne Bibliothèque de Corbie*, in: *Bibliothèque de l'Ecole des Chartres*, vol. 21, 1860, pp. 104-141, repr. in: *Le cabinet des manuscrits de la Bibliothèque impériale*, vol. 2, 1. ver., 1874 Paris, réimpr., Hildesheim/ New York 1978; DOBIAŠ-ROŽDESTVENSKAĬA, Olga: *Histoire de l'atelier graphique de Corbie de 651 à 830: reflétée dans les corbeiensis leninopolitani*, Труды Института истории науки и техники, Sér. 2, Fasc. 3. Codices corbeiensis leninopolitani, Leningrad 1934; STAERK, Dom Antonio: *Les manuscrits latins du V^e ou XIII^e siècle conservés à la Bibliothèque impériale de Saint-Petersbourg*, 2 vols., St. Petersburg 1910, repr., Hildesheim/ New York 1976.
- 15 BISCHOFF, Bernhard: *Mittelalterliche Studien*, 3 Bde., Stuttgart 1967-1981; idem: *Katalog der festländischen Handschriften des neunten Jahrhunderts (mit Ausnahme der wisigotischen)*, Bde. 1-3, Wiesbaden 1998-2014; BISHOP, Terence Alan Martyn: The Script of Corbie: a Criterion, in: *Varia Codicologia Litterae Textuales: Essays Presented to G.I. Lieftinck*, Amsterdam 1972, pp. 9-16; WINTER, Ursula: *Die mittelalterlichen Bibliothekskataloge aus Corbie: kommentierte Edition und bibliotheks- und wissenschaftsgeschichtliche Untersuchung*, Berlin 1972; idem: Die mittelalterlichen Bibliothekskataloge von Corbie, in: *Altertumswissenschaft mit Zukunft: dem Wirken Werner Hartkes gewidmet*, Sitzungsberichte des Plenums und der Klassen der Akademie der Wissenschaften der DDR, Jahrg. 1973, Nr. 2, Berlin 1973, S. 116-124; GANZ, David: *Corbie in the Carolingian Renaissance*, Sigmaringen 1990.
- 16 *Monumenta Germaniae Historica*, ZECHIEL-ECKES, Klaus: Handschriften aus Corbie (bis 850). Eine Bestandsaufnahme: <http://www.mgh.de/datenbanken/pseudoisidor/corbie/> (2016 年 2 月 8 日閲覧)
- 17 De MÉRINDOL, Christian: *La production des livres peints à l'abbaye de Corbie au XII^{ème} siècle: Étude historique et archéologique*, 3 vols., Lille 1976.
- 18 GANZ 1990, pp. 124-158. 制作地や制作年代については、ビショッフによるカタログをはじめとする資料を参考に適宜変更・修正

- を加えた。BISCHOFF 1998-2014; KOEHLER 1972.
- 19 PORCHER 1965, pp. 165, 170-172, pl. 180-182. 尚、本文中で言及するコルビー写本には、同一覧表記載のカatalog番号を記した。
- 20 NORDENFALK, Carl: Corbie and Cassiodorus: a Pattern Page Bearing on The Early History of Bookbinding, in: *Pantheon*, 32, 1974, p. 27ff.
- 21 古代末期の鳥魚文イニシアルについては、次を参照。BRUUN, Patrick: Symboles, signes et monogrammes, in: *Sylloge inscriptionum christianarum veterum Musei Vaticani: ediderunt commentariisque instruxerunt sodales Instituti Romani Finlandiae* (curante ZILLIACUS, Henrico), Acta Instituti Romani Finlandiae, v. 1, Helsinki 1963, pp. 73-166; NORDENFALK, Carl: *Die spätantiken Zierbuchstaben*, 2 Bde., Stockholm 1970, Bd. 1, S. 163, 178f.
- 22 ZIMMERMANN, Heinrich: *Vorkarolingische Miniaturen*, Denkmäler deutscher Kunst, 3, Sektion: Malerei, 1, Berlin 1916, Bd. 2, Taf. 90-91.
- 23 ZIMMERMANN 1916, Bd. 2, Taf. 104-c.
- 24 PÄCHT 1963, p. 68.
- 25 Fols. 4v; 11v; 16v; 20v; 23v; 24r; 24v; 26v; 33v; 37v; 38r; 40r; 53r; 55v; 65r; 68v; 75r; 75v; 79r; 90r; 99r; 107r; 110v; 111v; 116r; 117v; 120v; 122r; 122v; 124r; 132r; 137v.
- 26 PÄCHT, Otto: *Buchmalerei des Mittelalters*, München 1984, S. 52, Abb. 58.
- 27 類似のイニシアルが第 52 編イニシアル D (fol. 46v) にも見られるが、ここでは犬は二匹であり、文字の形を構成する大部分は犬の軀体ではなく緑色のリボン状装飾である。
- 28 PÄCHT 1984, S. 53: “Das Prinzip dieser Initialerfindung ist das der kaleidoskopischen Metamorphose, ...”
- 29 リボン状のモチーフを持つイニシアルの例として、以下が挙げられる。第 3 編 fol. 3v; 第 7 編 fol. 6r; 第 8 編 fol. 7r; 第 35 編 fol. 31r; 第 38 編 fol. 34v; 第 78 編 fol. 72v; 第 130 編 fol. 110v。
- 30 多くの研究者はその様式から、《コルビー詩編》の写本画家がインスラー出身だと推測している。KUDER 1977, S. 329.
- 31 PORCHER 1965, p. 174, pl. 184.
- 32 ベルリン、国立図書館、Preußischer Kulturbesitz, Ms. Phill 1865, fol. 3r. 同写本の当該記述と《コルビー詩編》との同定については、以下を参照。KUDER 1977, S. 6.
- 33 ケーラーはこのヒエロニムス像が古代末期写本に範を取っているとした上で、古代末期写本を模することでインスラー写本に人物像の有機的身体表現を齎した、《リンディスファーン福音書》の福音書記者マタイと《コデックス・アマティアヌス》(フィレンツェ、ラウレンツィアーナ図書館、Cod. Amiat. I) のエズラ像を引き合いに出している。KOEHLER 1972, S. 98-99.
- 34 所謂ノーサンブリア・ルネサンスの芸術については、以下を参照。NEUMAN de VEGVAR, Carol L.: *The Northumbrian Renaissance: a Study in the Transmission of Style*, Selinsgrove/ London 1987.
- 35 O. クルツはこの線描挿絵と、10 世紀の所謂マケドニア朝ルネサンスの詩編写本《パリ詩編》(パリ、国立図書館、Ms. gr. 139) の同主題の挿絵とを比較し、インスラーのこのダヴィデ伝挿絵がビザンティンの手本に基づいていると指摘している。KURZ, Otto: Ein insulares Musterbuchblatt und die byzantinische Psalterillustration, in: *Byzantinisch-neugriechische Jahrbücher*, 14, 1938, S. 84-93; ALEXANDER, Jonathan James Graham: *Insular Manuscripts, 6th to the 9th Century*, London 1978, pp. 65-66, Cat. 42.
- 36 例えば以下を参照。KUDER 1977, S. 105; 永澤峻『『ダヴィデとゴリアテの戦い』の図像の変遷——紀元後三世紀から十世紀まで』『和光大学人文学部紀要』第 15 号 和光大学人文学部 1980 年、60 頁。
- 37 同写本を含めたコルビー修道院のフランコ=サクソン派写本については、ホンブルガーによって詳しく様式分析が為されている。HOMBURGER, Otto: Eine spätkarolingische Schule von Corbie, in: *Karolingische und ottonische Kunst: Wesen, Werden, Wirkung*, Wiesbaden 1975, S. 412-426.
- 38 11 世紀の『テーバイス』写本(パリ、国立図書館、Ms. lat. 8055)、『福音書抄本』写本(アミアン、市立図書館、Ms. 172)、そして 12 世紀の『福音書講話』写本(パリ、国立図書館、Ms. lat. 13392) に、《コルビー詩編》のイニシアルからのコピーが見られる。これについては、アレクサンダーとド・メランドルが指摘している。ALEXANDER, Jonathan James Graham: Romanesque Copy from Mont Saint-Michel of an Initial in the Corbie Psalter, in: *Le Millenaire monastique du Mont Saint-Michel*, Paris 1967, pp. 240-241; idem: *Medieval Illuminators and Their Methods of Work*, New Haven 1992, pp. 90-91; de MÉRINDOL 1976, vol. 2, pp. 808-809; idem: Du livre de Kells et du Psautier de Corbie à l'art roman: origine, diffusion et signification du thème des personnages se saisissant à la barbe, in: *The Book of Kells: Proceedings of a Conference at Trinity College*, Dublin, 6-9 September 1992 (ed. by O'MAHONY, Felicity), Dublin 1994, p. 298.

[図版出典]

フランス国立図書館ウェブアーカイヴ Gallica (figs. 1, 3-8, 10, 12-15) / ZIMMERMANN, Heinrich: *Vorkarolingische Miniaturen*, Denkmäler deutscher Kunst, 3, Sektion: Malerei, 1, 5 Bde., Berlin 1916 (figs. 2, 9, 11)